

メキシコ・ハリスコ州家畜衛生診断技術向上計画 PDM (Version3)

作成年月日 2004.9.14

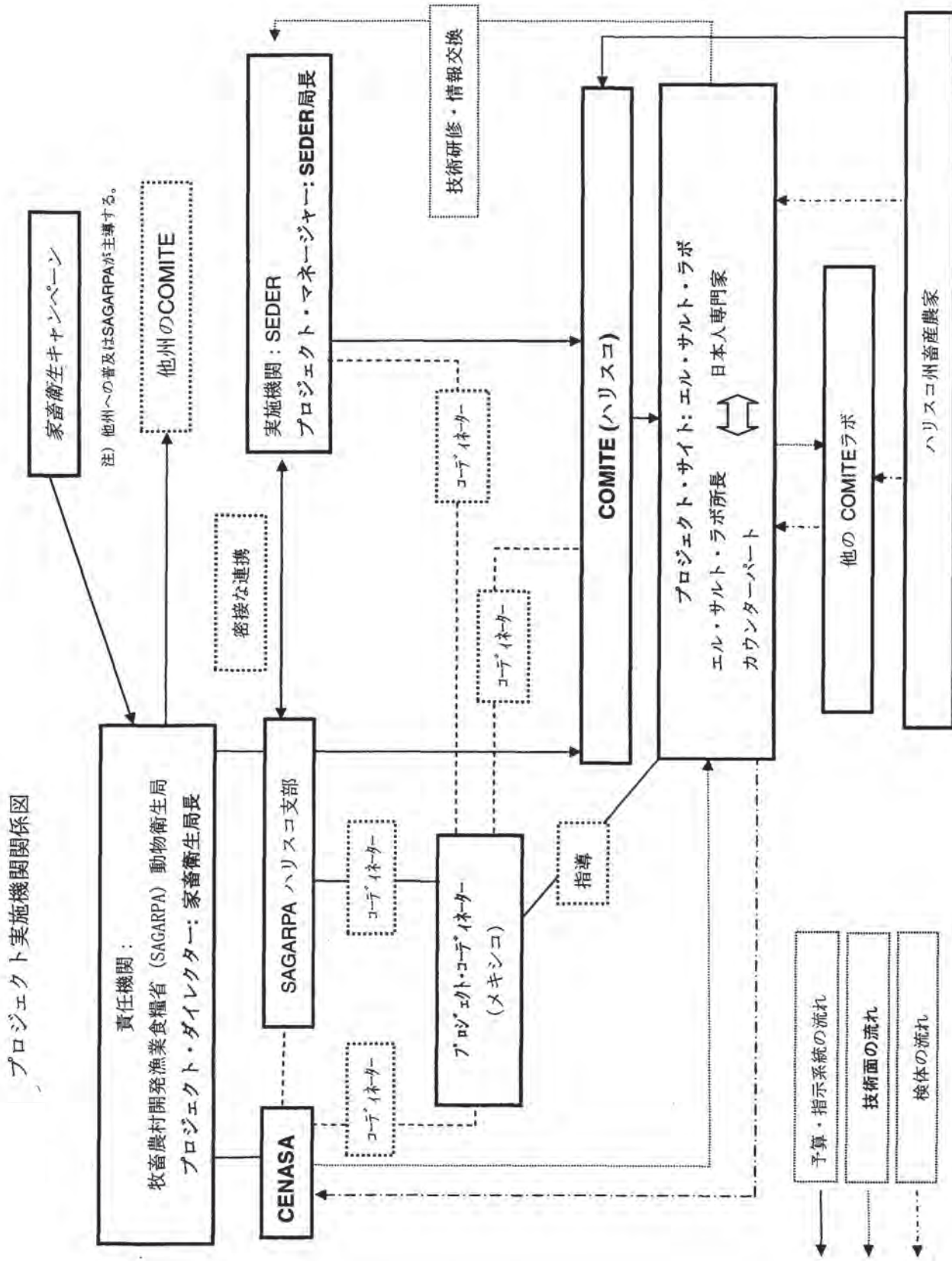
対象地域: ハリスコ州 ターゲットグループ: ターゲットエリアの畜産農家

協力期間: 2001年12月から5年間

| プロジェクトの要約 (上位目標) | 指標 | 指標データ入手手段 | 外部条件 |
|---|---|---|--|
| <p>ハリスコ州における家畜衛生状況が改善される。</p> <p>(プロジェクト目標)</p> <p>ハリスコ州の COMITE のラポにおける総合的な家畜感染病診断体制が強化される。</p> | <p>1. キャンペーン疾病の衛生ステータスが改善される。</p> <p>1. ハリスコ州の COMITE のラポにおいてキャンペーン疾病診断が可能となる。</p> | <p>1. メキシコ国家畜衛生統計資料</p> <p>1. COMITE の検査・診断報告書</p> | <p>1. 家畜衛生 (政策) プログラムが継続・強化される。</p> <p>2. 他州からの家畜感染病の流入がない。</p> <p>1. 診断結果がハリスコ州政府の政策や制度に反映される。</p> <p>2. 家畜衛生プログラムへの畜産農家の参加が増加する。</p> |
| <p>(成果)</p> <p>1. エルサルトラポにおける基礎的な検査技術が改善される。</p> <p>2. ハリスコ州で問題となっている家畜感染病に対するエルサルトラポでの診断技術が改善される。</p> <p>3. ハリスコ州における他の COMITE ラポも含む家畜衛生関係者の衛生知識・技術が向上する。</p> | <p>1. エルサルトラポにおいて基礎的な検査技術の項目数が増加する。</p> <p>2. ハリスコ州で問題となっている9種類以上の家畜感染病の診断が可能となる。</p> <p>3. 研修会及びセミナー等が年3回以上開催される。</p> | <p>1. チェックリスト, 技術マニュアル</p> <p>2. チェックリスト, ラポの検査・診断記録</p> <p>3. 研修会及びセミナー記録 (開催回数, 参加者数), 配付資料</p> | <p>1. 十分な数の検体材料が適切な形で COMITE のラポに集めることができる。</p> <p>2. ラポにおける診断体制が維持される。</p> <p>3. 診断結果が現場に反映される。</p> |
| <p>(活動)</p> <p>1. 基礎的な検査技術の改善</p> <p>1-1. ウイルス学的検査</p> <p>1-2. 細菌学的検査</p> <p>1-3. 病理学的検査</p> <p>2. ハリスコ州で問題となっている家畜感染病の診断技術の改善</p> <p>2-1. ウイルス学的診断</p> <p>2-2. 細菌学的診断</p> <p>2-3. 病理学的診断</p> <p>3. ハリスコ州の家畜衛生関係者に対する研修</p> <p>3-1. 研修会等による診断技術の移転</p> <p>3-2. セミナー等による家畜疾病診断技術・情報の普及</p> | <p>(投入)</p> <p>I. 日本側</p> <p>1. 日本人専門家の派遣</p> <p>1-1. 長期専門家 (チーフアドバイザー, 業務調整, ウイルス学, 細菌学, 病理学の専門家)</p> <p>1-2. 短期専門家 (必要に応じて派遣)</p> <p>2. 機材の供与</p> <p>3. メキシコ人 C/P の日本での研修 (必要に応じて受入)</p> <p>II. メキシコ側</p> <p>1. C/P の配置</p> <p>1-1. プロジェクトダイレクター</p> <p>1-2. プロジェクトマネージャー</p> <p>1-3. プロジェクトコーディネーター</p> <p>1-4. エル・サルトル・ラポ所長</p> <p>1-5. 各分野の C/P (ウイルス学, 細菌学, 病理学)</p> <p>1-6. 管理運営職員 (秘書, その他の補助職員)</p> <p>2. 土地, 施設の提供</p> <p>3. ローカルコストの負担</p> | <p>1. C/P がプロジェクト業務を継続する。</p> <p>2. エル・サルトル・ラポに必要な予算が確実に配分される。</p> <p>3. 他の COMITE ラポの整備に必要な設備, 人員, 予算が適切に配置される。</p> <p>(前提条件)</p> <p>1. エル・サルトル・ラポの新設・整備</p> <p>2. エル・サルトル・ラポの 2001 年の予算確保</p> <p>3. エル・サルトル・ラポでの日常業務の実施</p> <p>4. 必要なスタッフの配置</p> <p>5. 連邦及び州政府の政権交代にかかわらず, 家畜衛生政策が大きく変わらない。</p> <p>6. CENASA 等関係機関の協力が得られる。</p> | |

キャンペーン疾病: 牛 (牛ブルセラ病, 牛結核, 狂犬病, ダニ媒介血液寄生虫病), 豚 (豚コレラ病, オーストリア病), 鶏 (鳥インフルエンザ, ニューカッスル病, サルモネラ)

5. プロジェクト実施機関関係図



案件名：メキシコ ハリスコ州家畜衛生診断技術向上計画
 上位目標：ハリスコ州における家畜衛生状況が改善される。
 プロジェクト目標：ハリスコ州の COMITE のラボにおける総合的な家畜感染症診断体制が強化される。

注) 2006 年は 7 月までの実績

| | プロジェクトの要約/計画活動 | 到達目標 | 活動実績 | 達成度 |
|--------|----------------------------|---------------------------------|--|-----|
| 活 動 | 1. 基礎的な検査技術の改善 | | | |
| | 1-1 ウイルス学的検査 | | | |
| | 1-1-1 発育鶏卵接種による家禽ウイルスの検査技術 | 発育鶏卵による鳥類ウイルスの検査ができる。 | キャンペン病 (CPD) であるニューカッスル病 (ND) および鳥インフルエンザ (AI) のモニタリング検査を発育鶏卵接種により実施している。中間評価時以降 (2004.08~2006.04) 以後各分野とも実績はこの期間のもの、596 件検査し、56 件 ND、4 件 AI の陽性結果であった。 | 4 |
| | 1-1-2 細胞培養技術 | 細胞培養ができる。 | 日本から 11 株、墨国より 2 株の株化細胞を導入し、培養維持している。鶏腎、牛腎細胞等の初代細胞培養技術も修得済みである。 | 4 |
| | 1-1-3 培養細胞を用いたウイルスの分離・同定技術 | 培養細胞によるウイルスの検査ができる。 | PK-15 および Marc 細胞を用いて、豚の野外材料のウイルス検査を実施している。20 検体中 1 検体より Marc 細胞により豚繁殖呼吸器症候群 (PRRS) ウイルスを分離した。また、1-1-1 で分離された ND ウイルスの病原性試験をブラッキング法により判定し、発育鶏卵の平均致死時間による判定法と比較したところ良く一致する成績を得た。 | 4 |
| | 1-1-4 血清学的診断技術 | 血清学的診断ができる。 | CPD のモニタリング検査を中心に実施している。ウイルスに対する抗体の検出は、ELISA および血球凝集抑制反応 (HI) により実施しているが、技術的に問題はない。豚コレラ (CSF)、オーストラリア病 (AD) は ELISA、AI は HI により、それぞれ 59,077、31,521、30,622 検体の検査を実施した。また、牛伝染性鼻気管炎、牛ウイルス性下痢症 (BVD) の ELISA による検査をそれぞれ、1,288、1,228 検体実施した。 | 4 |
| | 1-2 細菌学的検査 | | | |
| | 1-2-1 標準菌株の導入 | 標準菌株が確保され細菌学的検査の参照株として利用できる。 | 動物衛生研究所より、 <i>Escherichia coli</i> 、 <i>Salmonella enterica</i> 、 <i>Staphylococcus aureus</i> 、 <i>Brucella abortus</i> 、 <i>Mycoplasma bovis</i> 、 <i>Actinobacillus pleuropneumoniae</i> 等 65 菌株を導入し、一般細菌については 5% 蔗糖液に浮遊させ、マイコプラズマについては半流動寒天培地で培養した後 -70℃ に保存した。また、生致試験を実施するとともに、順次凍結乾燥を実施している。 | 4 |
| | 1-2-2 病原細菌の分離・同定技術 | 適切な検査材料の採材、培養、分離、同定技術が向上する。 | 病理解剖時に、剖検所見に応じて材料を採取でき、供試培地、培養方法等を決定できるようになった。分離された細菌については、グラム染色、カタラーゼ、オキシダーゼ等の基本性状を調べた後、API システムによる同定が適切に実施できるようになった。 | 4 |
| | 1-2-3 病原細菌の保存技術 | 主要分離菌及び標準菌株が保存され診断用参照株として利用できる。 | ゼラチンデンプク法よりも簡便な 5% 蔗糖液凍結法による保存試験を実施し、前者よりもはるかに簡便で保存性にも優れていることを確認し、通常の保存法とした。参照菌株については、凍結乾燥法を導入し、順次凍結乾燥している。 | 4 |
| | 1-2-4 薬剤感受性試験法 | 病原細菌の薬剤感受性成績が治療に応用できる。 | 薬剤感受性試験法の国際標準となっている NCCLS 法に準拠した段階希釈法により薬剤感受性試験、およびマイクロプレートを用いた液体培地希釈法によるマイコプラズマの薬剤感受性試験法を実施し、手技をマスターした。通常の薬剤感受性試験は 1 濃度ディスク法により実施している。 | 4 |

| | プロジェクトの要約/計画活動 | 到達目標 | 活動実績 | 達成度 |
|-------------------------------------|----------------|------------------------------|---|-----|
| 1-3 病理学的検査 | | | | |
| 1-3-1 解剖、採材技術 | | 組織検査のための採材技術が定着する。 | 解剖、肉眼病変観察、採材は適切に実施できる。中間評価以降、牛43頭、豚80頭、羊13頭、鶏95羽、山羊3頭、その他30頭の剖検を実施した。 | 4 |
| 1-3-2 組織標本作製技術 | | 総合的診断を念頭においた正確な組織所見が確保される。 | 採取された材料について、ホルマリン固定から組織の薄切までを再点検・改善したことにより、適切で観察しやすい組織標本の作製技術が定着した。 | 4 |
| 1-3-3 特殊染色技術 | | 組織所見の確実な裏付けができる。 | アザン、ルクトール、フアストブル、PAS、オイルレッドOによる脂肪染色等の組織化学染色、グラム、チールネルセン、グロコット、ワーチンステンタリー等の微生物染色が実施可能となった。 | 4 |
| 1-3-4 各種疾病組織標本の観察 | | 各種疾病の組織診断技術が向上する。 | 牛、豚、鶏について日本で作製した各種疾病標本について、特徴的な病変が迅速かつ的確に診断できるようになるまで繰り返し観察することにより、病変材料の組織標本の診断技術が向上した。また、病変材料の診断においては、疫学所見や解剖所見を基に組織標本を観察し診断を行うという基本姿勢が確立した。 | 4 |
| 1-3-5 組織診断記録の保存 | | 病理組織診断成績がCDへ保存され、将来へ伝達される。 | 病変材料について、疫学情報を含めた裏告記録ならびに解剖時の肉眼病変像および組織病変像をデジタルカメラで撮影した画像を記録として保存している。 | 4 |
| 2. ハリスコ州で問題となっている家畜感染症の診断技術の改善 | | | | |
| 2-1 ウイルス学的検査 | | | | |
| 2-1-1 既に実施している各種診断技術の点検改良 | | 既存診断技術の問題点が明らかになる。 | SPF発育鶏卵と一般発育鶏卵を用いた場合の検査結果の違いを比較させ、その違いの意義を認識させた。市販のELISA、HI、免疫酵素抗体染色法等のキットの精度を検討し、注意点を指導し、今後問題に直面した場合の技術的検討事項とした。 | 4 |
| 2-1-2 ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) 法によるウイルス検出技術 | | PCR法による検査が可能になる。 | PCR法に必要なウイルス核酸の抽出、増幅、ゲル電気泳動、核酸染色と撮影技術等基礎技術を修得した。プライマーはPRRS、CSF、BVD、BE、AD、ND、AI、PCV2を用意し、概ね診断に利用できることを証明した。また、豚および鶏の病性鑑定材料それぞれ21検体および30検体について実施し、PRRS、PCV、BEおよびNDウイルスを検出した。また、日本および米国で報告されているCSFウイルス検出プライマーを比較したところ、前者はBVDウイルスとの交差が見られるのに対して、後者では認められないことが明らかとなった。 | 4 |
| 2-1-3 ウイルスに対する抗血清の作製および利用技術 | | 必要な抗血清が得られる。 | 細胞培養あるいは発育鶏卵で大量培養したウイルスを濃縮・不活化して免疫抗原とし、鶏、ウサギ、豚を免疫、試血して抗体価を測定した後全採血する一連の技術は定着した。これまでにNDおよびAIに対する鶏抗血清、PRRSおよびADに対するウサギ抗血清、ADに対する豚抗血清を得た。 | 4 |
| 2-2 細菌学的検査 | | | | |
| 2-2-1 複数菌が関与する疾病の診断 | | 複数病原体の分離・培養技術により、診断の精度が向上する。 | 病性鑑定材料から分離される細菌について、菌量や菌群の推定から病変との関連性が深いと考えられる分離菌株を抽出し同定を試みる技術に習熟した。マイコプラズマ等の難培養菌も分離できるようになった。中間評価以降227検体について細菌学的検査を実施している。流産や虚弱産子が多発していた羊農場を調査し、関与していると考えられた複数菌の中から、とりわけCorynebacterium pseudotuberculosisが重要であることを指摘し、病理学的検査と併せて仮性結核と診断できたことは特筆に値する。同定菌種は、50種以上に上る。 | 4 |

| プロジェクトの要約/計画活動 | 到達目標 | 活動実績 | 達成度 |
|-------------------------------|--------------------------------------|---|-----|
| 2-2-2 血清反応技術 | 血清学的な確定診断が可能となる。 | 536 鶏群のサルモネラモニタリング検査において、19 鶏群から分離されたサルモネラの O 群型別を実施したところ、O9 群が過半数を占めた。またブルセラ抗体検出の補体結合反応 (CF) 技術が定着し、検査を開始した。CF 抗体の検査依頼があった 591 検体中 560 検体が陽性 (牛: 23/1252、羊: 329/339) であった。 | 4 |
| 2-2-3 血清型別用血清の作製と利用技術 | 高力価血清が作製され、菌株の血清学的型別等に利用できる。 | 抗原の作製、免疫、部分採血、全採血等抗血清の作製に必要な技術はすべて修得した。これまでに Brucella abortus, Bordetella bronchiseptica に対するウサギ高価免疫血清を作製した。 | 3 |
| 2-2-4 PCR 法による菌種の同定と解析 | 分離菌の精度の高い解析が可能となる。 | Brucella abortus の同定、大腸菌ペロ毒素の検出、サルモネラ H 抗原を検出する Multiplex-PCR が実施できるようになった。病変材料から分離され、生化学的性状から B. abortus と考えられた菌株を PCR 法により確認した。 | 3 |
| 2-3 病理学的検査 | | | |
| 2-3-1 免疫蛍光染色技術 | 病理組織での抗原を検出することにより、迅速で精度の高い診断が可能となる。 | 免疫蛍光染色技術を修得するとともに、豚コレラウイルスを直接蛍光抗体法により検出するための蛍光標識抗体を比較し、オランダ製標識抗体から日本製のそれに変更した。また、豚コレラの清浄性確認検査において ELISA 陽性となった農場の病豚 2,071 頭より扁桃を採取し、豚コレラウイルスの有無を蛍光抗体法により検査し、全て陰性の成績を得た。 | 4 |
| 2-3-2 免疫組織染色技術 | 同上。 | ABC 法およびポリマー法による免疫組織染色技術を修得し、PRRS および PCV2 については、Bioscience 社の抗血清を用い、0.1% アクチナーゼで 15 分間処理することにより、明瞭に染色されることを明らかにした。 | 4 |
| 2-3-3 免疫染色のための抗血清の作製 | 高力価抗血清が作製される。 | 本項目は、動物施設未建設のため中間評価時点で未実施であったが、本項目の目的はウイルス学および細菌学で作製した抗血清を利用することで達成できることから、2-2-3 記載の活動内容に変更した (第 3 回モニタリング会議、2004.09.14)。 | 3 |
| 2-3-4 病性鑑定材料の最終診断のための全分野会議の主催 | 病性鑑定材料の総合診断が可能となる。 | 全分野が関与した材料の中から、総合判断が必要と考えられた材料について討議した。浮腫病、羊の仮性結核、マレック病等が総合的に診断された。 | 3 |
| 3. ハリスコ州の家畜衛生関係者に対する研修 | | 下記のように、CENASA 病理担当者 1 名、グアダハラハラ大学獣医学科教育 2 名 (教授 1、助教授 1)、COMITE のテパティトラトラボと Guanajuato 州の Irapuato ラボ職員 2 名に対する技術移転を行った (回数: 5、延べ日数: 18 日)。 CENASA 病理担当者: 免疫組織染色 UDEG 教官: ELISA、補体結合反応、マイコプラズマの培養、API システムによる細菌の同定技術等 地方ラボ職員: 検査の基本と ELISA の概略 | 3 |
| 3-2 セミナー等による家畜疾病診断技術・情報の普及 | 家畜衛生関係者の衛生関連知識が向上する。 | 「豚の腸管感染症」、「鶏インフルエンザ」、「豚の呼吸器病候群」、「病理解剖と検材」、「免疫組織化学染色」等をテーマとしたセミナーを 9 回開催し、毎回 50~70 名の参加者を得た。また、プロジェクト広報紙を 9 号 (第 3~11 号) 発行し、各号技術、啓蒙記事を掲載、配布した (各号 1,000~1,200 部)。 | 4 |

達成度:

4: 完了(既に完了している) 3: 完了見込み (プロジェクト終了時まで完了見込み) 2: 課題を残す (プロジェクト終了時まで完了見込み) 1: 活動せず

| | プロジェクトの要約 | 指標 | データ入手手段 | 実績 | 達成度 |
|------------|--|---|--------------------------------|---|-----|
| アウトプット | 1. エルサルトラポにおける基礎的な検査技術が改善される。 | 1. エルサルトラポにおいて基礎的な検査技術の項目数が増加する。 | 1. チェックリスト、技術マニュアル | エルサルトラポにおいて基礎的な検査技術の項目数が増加し、基礎的な検査技術の改善が達成された。 | A |
| | 2. ハリスコ州で問題となっている家畜感染症に対するエルサルトラポでの診断技術が改善される。 | 2. ハリスコ州で問題となっている9種類以上の家畜感染症の診断が可能となる。 | 2. チェックリスト、ラボの検査・診断記録 | ハリスコ州で問題となっている9種類以上の家畜感染症の診断が可能となり、家畜感染症に対するエルサルトラポでの診断技術の改善が達成された。 | A |
| | 3. ハリスコ州における他のCOMITEラボも含む家畜衛生関係者の衛生知識・技術が向上する。 | 3. 研修会及びセミナー等が年3回以上開催される。 | 3. 研修会及びセミナー記録(開催回数、参加者数)、配付資料 | 研修会およびセミナー等が年3回以上開催され、ハリスコ州における他のCOMITEラボも含む家畜衛生関係者の衛生知識・技術の向上が達成された。 | A |
| プロジェクト上位目標 | ハリスコ州のCOMITEのラボにおける総合的な家畜感染症診断体制が強化される。 | 1. ハリスコ州のCOMITEのラボにおいてキャンペーン疾病診断が可能となる。 | 1. COMITEの検査・診断報告書 | ハリスコ州のCOMITEのラボにおいてキャンペーン疾病診断が可能となり、総合的な家畜感染症診断体制の強化がほぼ達成される。 | A |
| | ハリスコ州における家畜衛生状況が改善される。 | 1. キャンペーン疾病の衛生ステータスが改善される。 | 1. メキシコ国家畜衛生統計資料 | キャンペーン疾病の衛生ステータスが改善されており、ハリスコ州における家畜衛生状況の改善が達成される見込みである。 | A |

達成度:

アウトプットとプロジェクト目標については、達成度を以下のとおりに設定する。

A: アウトプットとプロジェクト目標は、ほぼ達成された。(達成率80%以上)
 B: アウトプットとプロジェクト目標は、ある程度達成された。(達成率60~80%未満)
 C: アウトプットとプロジェクト目標は、達成されていない。(達成率60%未満)

上位目標については、次の3段階で達成見込みの度合いを判定する。

A: 上位目標は、ほぼ達成される見込みが高い。(達成見込み率80%以上)
 B: 上位目標は、ある程度達成される見込みがある。(達成見込み率60~80%未満)
 C: 上位目標は、達成される見込みが低い。(達成見込み率60%未満)

注: CPD: キャンペーン疾病, ND: ニューカッスル病, AI: 鳥インフルエンザ, AD: オーストラリア病, BE: ブルーアイ病, CSF: 豚コレラ, PRRS: 豚繁殖呼吸障害症候群, BVD: ウシウイルス性下痢症, HI: 血球凝集抑制反応

7. 評価グリッド

1. 実施プロセス

案件名：メキシコ ハリスコ州家畜衛生診断技術向上計画
 上位目標：ハリスコ州における家畜衛生状況が改善される。
 プロジェクト目標：ハリスコ州の COMITE のラボにおける総合的な家畜感染病診断体制が強化される。
 (現状・実績に基づいて検証)

| 大項目 | 評価設問 | | 情報源 | データ収集方法 | 評価 | 評価段階 |
|-----------|---------------------------------|---|-------------------------------------|-----------------|---|------|
| | 小項目 | | | | | |
| 実績の検証 | 投入は計画どおりに実施されたか。 | | 実績グリッド、PRODIVET 内部資料 (プロドク)、専門家、C/P | 資料レビュー インタビュ | 実績グリッドに示されるように、一部は遅れたものの、投入はほぼ計画どおりに実施された。 | B |
| | アウトプットは計画どおりに産出されたか。 | 1. エルサルトラボにおける基礎的な検査技術が改善される。 2. ハリスコ州で問題となっている家畜感染症に対するエルサルトラボでの診断技術が改善される。 3. ハリスコ州における他の COMITE ラボも含む家畜衛生関係者の衛生知識・技術が向上する。 | 実績グリッド、プロドク、専門家、C/P | 資料レビュー インタビュ | 実績グリッドに示されるように、アウトプットは計画どおりに産出している。 | A |
| | プロジェクト目標は達成されるか。 | | 実績グリッド、プロドク、専門家、C/P | 資料レビュー インタビュ | 実績グリッドに示されるように、プロジェクト目標は、ほぼ達成される。 | A |
| | 上位目標の達成の見込みはあるか。 | | 実績グリッド、プロドク、専門家、C/P | 資料レビュー インタビュ | 数年後には、上位目標の達成は確実に見込まれる。 | A |
| | 活動は計画どおりに実施されたか。 | | 実績グリッド、プロドク、専門家、C/P | 資料レビュー インタビュ | 現在、一部実施中の活動はあるが、プロジェクト終了時までには、全ての活動が終了する見込みである。 | A |
| 実施プロセスの検証 | 技術移転の方法に問題はなかったか。 | | 専門家、C/P | インタビュ | ラボにおける日本人専門家による技術移転の方法および日本での技術研修は C/P に受け入れられた。 | A |
| | プロジェクトのマネジメント体制に問題はなかったか。 | | 専門家、C/P、関係機関 | インタビュ | 当初、関係機関および関係者間で若干のコミュニケーション不足の問題はあったが、定期的に、合同調整委員会 (JCC) およびモニタリング会議が開催され、適切なプロジェクト管理が行われている。 | A |
| | 実施機関やカウンターパートのプロジェクトに対する認識は高いか。 | | 関係機関、専門家、C/P | インタビュ | 関係機関および C/P は積極的にプロジェクトに関与している。 | A |
| | 適切なカウンターパートが配置されたか。 | | 実績グリッド、プロドク、専門家、C/P | 資料レビュー インタビュ | C/P は随時増員され、適切な数の C/P が配置されている。 | A |

| | | | | | | |
|--|---|--|------------------|--------|--|---|
| | ターゲットグループや関係機関のプロジェクトへの参加度合いや、プロジェクトに対する認識は高いか。 | | 関係機関、専門家、CP、畜産農家 | インタビュー | 畜産農家がエルサルトラボに持ち込むサンプル数は飛躍的に増加しており、ラボの家畜診断サービスに関する評価は大きく高まっている。 | A |
| | プロジェクトの実施過程で生じている問題や、効果発現に影響を与えた要因は何か。 | | 関係機関、専門家、CP、畜産農家 | インタビュー | 重大な要因は見られない。 | A |

評価グリッド 2.評価5項目

案件名：メキシコ ハリスコ州家畜衛生診断技術向上計画

上位目標：ハリスコ州における家畜衛生状況が改善される。

プロジェクト目標：ハリスコ州の COMITE のラボにおける総合的な家畜感染症診断体制が強化される。

| 5項目 | 評価設定 | | 情報源 | データ収集方法 | 評価 | 評価段階 |
|------------------|-------------------------------|--|--------------------------------------|--|---|------|
| | 大項目 | 小項目 | | | | |
| 妥当性 | プロジェクト実施の必要性はあったか。 | 対象地域・社会のニーズに合致していたか。 | プロドク、関係機関、専門家、CP、畜産農家 | 資料レビュー インタビュー | ハリスコ州において、家畜生産は主要産業であり、家畜衛生診断技術の向上のニーズは同州において非常に高い。 | A |
| | | ターゲットグループのニーズに合致していたか。 | プロドク、関係機関、専門家 | 資料レビュー インタビュー | プロジェクトの目的は、ハリスコ州の畜産農家のニーズに全く合致する。 | A |
| | 設定された目標は、メキシコ国の開発政策との整合性があるか。 | 対象分野の開発課題に対する効果を上げる戦略として適切であったか。 | プロドク、関係機関 | 資料レビュー インタビュー | 家畜衛生診断技術の向上は、連邦政府およびハリスコ州政府の重要政策である畜産振興を達成する重要な戦略である。 | A |
| | | プロジェクトのアプローチは適切であったか。 | プロドク、関係機関 | 資料レビュー インタビュー | 家畜衛生診断を担当する COMITE のラボにおける研修による人材育成は、プロジェクト目標を達成するアプローチとして適切であった。 | A |
| | 設定された目標は、日本国の援助政策との整合性があったか。 | 援助重点課題と整合性があるか。 | 個別援助方針等 | 資料レビュー | プロジェクトは外務省の方針に合致している。 | A |
| 有効性 | ターゲットグループの選定は適正であったか。 | 個別事業実施計画と整合性があるか。 | 個別事業実施計画 | 資料レビュー | JICA 個別事業実施計画の重点課題である。 | A |
| | | ターゲットグループの対象および規模は適正であったか。 | 関係機関、専門家、CP、畜産農家 | インタビュー | ターゲットグループの対象および規模に問題はなかった。 | A |
| | 日本の技術の優位性はあったか。 | ターゲットグループ以外への波及性はあったか。 | 関係機関、専門家、CP、畜産農家 | インタビュー | 州外からの技術研修の要請が増加している。 | A |
| | | 中間評価以降のプロジェクトを取り巻く環境（政策、経済、社会等）の変化はあったか。 | JICA 担当事業部、専門家、CP、畜産農家 | インタビュー | INAH の家畜衛生診断に関する技術水準は高く、各国で活動している。 | A |
| | PDM は必要に応じて見直されたか。 | プロジェクト目標は達成されるか。 | 関係機関、専門家、CP、畜産農家 | インタビュー | 家畜衛生診断技術の向上のニーズはより強まっている。 | A |
| プロジェクト目標は達成されるか。 | プロジェクト目標は明確か。 | プロドク、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー 資料レビュー インタビュー | PDM は二度見直されたが、プロジェクト目標と上位目標との関係および用語をより具体的に検討する必要があると思われ、若干、明確さに欠ける。 | B | |

| 5項目 | 評価設問 | | 情報源 | データ収集方法 | 評価 | 評価段階 |
|-----|--|--------------------------------------|--------------|------------------|--|------|
| | 大項目 | 小項目 | | | | |
| 効果性 | アウトプットは達成されるか。 アウトプットは、プロジェクト目標を達成するために十分であったか。 外部条件の影響はあったか。 プロジェクト目標の達成を阻害する要因はあったか。 アウトプットの産出状況は適切か。 活動とアウトプットの関係は適切か。 活動のための適正な規模・質の投入がタイミング良く実施されたか。 妥当なコストであったか。 投入は適切であったか。 プロジェクトの効率性を阻害・貢献する要因はあったか。 | プロジェクト目標はどの程度まで達成できたか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 指標に関しては、ほぼ完全に達成できた。 | A |
| | | アウトプットの産出とプロジェクト目標の達成とに論理的な無理はなかったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 実績グリッドに示されるように、アウトプットは計画どおりに達成される。 | A |
| | | CPの能力向上は十分であったか。 | 専門家、CP | インタビュー | PDMには大きな無理はない。 | A |
| | | 研修およびセミナーは開催されたか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | CPの技術能力は、大きく向上している。 | A |
| | | 外部条件の影響はあったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 2003年以降は、研修会およびセミナーが3回以上開催された。 | A |
| | | プロジェクト目標の達成を阻害する要因はあったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 顕著な影響は確認されていない。 | A |
| | | アウトプットの産出状況は適切か。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 顕著な影響は確認されていない。 | A |
| | | 活動とアウトプットの関係は適切か。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 実績グリッドに示されるように、アウトプットは適切に産出している。 | A |
| | | 活動のための適正な規模・質の投入がタイミング良く実施されたか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | アウトプットを産出するのに活動は十分であった。 | A |
| | | 妥当なコストであったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 顕著な影響は確認されていない。 | A |
| 効果性 | 活動のための適正な規模・質の投入がタイミング良く実施されたか。 妥当なコストであったか。 投入は適切であったか。 プロジェクトの効率性を阻害・貢献する要因はあったか。 | プロジェクト目標はどの程度まで達成できたか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 専門家の派遣は、規模およびタイミング的に適切であった。 | A |
| | | アウトプットの産出とプロジェクト目標の達成とに論理的な無理はなかったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 供与機材は、規模および質的に適切に投入され、ほぼ全てが適正に管理使用されている。 | A |
| | | CPの能力向上は十分であったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | CPは当初規模的に少なかったが、日本側の要請により、適切な人数まで増員された。 | A |
| | | 外部条件の影響はあったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 実績動物舎および研修棟の建設が遅れた。 | B |
| | | アウトプットの産出状況は適切か。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 2002～2005の4年間に16名のCPが日本で研修を受けた。 | A |
| | | 活動とアウトプットの関係は適切か。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | プロジェクト規模から判断して、総投入コストは妥当である。 | A |
| | | 活動のための適正な規模・質の投入がタイミング良く実施されたか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 現地業務費は適正規模である。 | A |
| | | 妥当なコストであったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | メキシコ側は、最大限の投入を行った。 | A |
| | | 投入は適切であったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 日本側およびメキシコ側ともに、アウトプットは投入に見合った、人材、資機材、経費の投入である。 | A |
| | | プロジェクトの効率性を阻害・貢献する要因はあったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | ほぼ、プロジェクト目標の達成度に見合った投入である。 | A |
| 効果性 | アウトプットは達成されるか。 アウトプットは、プロジェクト目標を達成するために十分であったか。 外部条件の影響はあったか。 プロジェクト目標の達成を阻害する要因はあったか。 アウトプットの産出状況は適切か。 活動とアウトプットの関係は適切か。 活動のための適正な規模・質の投入がタイミング良く実施されたか。 妥当なコストであったか。 投入は適切であったか。 プロジェクトの効率性を阻害・貢献する要因はあったか。 | プロジェクト目標はどの程度まで達成できたか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | プロジェクトの初期段階に3名のCPが退職したが、全体的にCPはよく定着している。 | A |
| | | アウトプットの産出とプロジェクト目標の達成とに論理的な無理はなかったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | プロジェクトの初期段階に3名のCPが退職したが、全体的にCPはよく定着している。 | A |
| | | CPの能力向上は十分であったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 顕著な影響は確認されていない。 | A |
| | | 外部条件の影響はあったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 顕著な影響は確認されていない。 | A |
| | | アウトプットの産出状況は適切か。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 実績グリッドに示されるように、アウトプットは適切に産出している。 | A |
| | | 活動とアウトプットの関係は適切か。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | アウトプットを産出するのに活動は十分であった。 | A |
| | | 活動のための適正な規模・質の投入がタイミング良く実施されたか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 顕著な影響は確認されていない。 | A |
| | | 妥当なコストであったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 2002～2005の4年間に16名のCPが日本で研修を受けた。 | A |
| | | 投入は適切であったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | プロジェクト規模から判断して、総投入コストは妥当である。 | A |
| | | プロジェクトの効率性を阻害・貢献する要因はあったか。 | プロダクト、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 現地業務費は適正規模である。 | A |

| 5項目 | 評価設定 | | 情報源 | データ収集方法 | 評価 | 評価段階 |
|---------------------|--|--|-------------------|---|---|------|
| | 大項目 | 小項目 | | | | |
| インパクト | 上位目標は達成される見込みか、 上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか、 ターゲットグループの状況はプロジェクトの要諦前と比較して変化したか、 その他の波及効果（正・負）はあるか、 政策支援は協力終了後も継続するか、 活動は継続して行われるか、 プロジェクトで移転された技術は定着するか、 プロジェクトの自立発展性を阻害する要因はあるか、 総合的に勘案して、自立発展性は高いか。 | その他の要因はあったか。 | プロドク、関係機関、専門家 | 資料レビュー インタビュー | CPの日本での明題は、プロジェクトの効率性を高めるために貢献した。 | A |
| | | 投入・アウトプットの実績、活動の状況に照らし合わせて、上位目標はプロジェクトの効果として発現が見込まれるか。 | プロドク、関係機関、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | プロジェクト目標の達成による上位目標への波及効果は、明確に確認することは困難であるが、今後、アウトプットが増加し、プロジェクト目標の達成が確実なものになれば、上位目標はプロジェクトの効果として発現が見込まれる。 | A |
| | | 上位目標の達成によりメキシコ国の開発計画へのインパクトは見込めるか。 | プロドク、関係機関、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 長期的視点で見ると、上位目標の達成はメキシコ国の開発計画への効果が十分期待できる。 | A |
| | | 上位目標の達成を阻害する要因はあるか。 | プロドク、関係機関、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 他州からの家畜感染の流入がない。 | A |
| | | 上位目標とプロジェクト目標の関係は論理的か。 | プロドク、関係機関、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | PDM に若干論理的な矛盾があり、上位目標とプロジェクト目標との関係に若干の齟齬がある。 | B |
| | | 外部条件が満たされる可能性は高いか。 | プロドク、関係機関、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | 外部条件が満たされる可能性は十分に高い。 | A |
| | | 関係機関、専門家、CP | インタビュー | 家畜衛生状況が大きく改善された。 | A | |
| | | 関係機関、専門家、CP | インタビュー | EMA の認証を受けることができた。 | A | |
| | | 関係機関、専門家、CP | インタビュー | SAGARPA および CEDER はラゴの活動を支援することを表明している。 | A | |
| | | 関係機関、専門家、CP | インタビュー | COMITE は予算計画を策定しており、活動を継続する組織能力はある。 | A | |
| 自立発展性 | 活動は継続して行われるか、 プロジェクトで移転された技術は定着するか、 プロジェクトの自立発展性を阻害する要因はあるか、 総合的に勘案して、自立発展性は高いか。 | COMITE には協力終了後も活動を継続する組織能力はあるか。 | 関係機関、専門家、CP | インタビュー | COMITE は予算計画を策定しており、活動を継続する組織能力はある。 | A |
| | | SEDER および COMITE のプロジェクトに対するオーナーシップは十分に確保されているか。 | 関係機関、専門家、CP | インタビュー | ラゴの活動は収入を伴っており、プロジェクトに対する COMITE のオーナーシップは十分に確保されている。 | A |
| | | プロジェクトを継続するために必要な人材、経費を確保しているか。 | プロドク、関係機関、専門家、CP | 資料レビュー インタビュー | COMITE は予算計画を策定しており、ラゴのサービスは収入を伴っており、必要な人材、経費は確保される。 | A |
| | | CP は定着して活動を継続するか。 | 関係機関、CP | インタビュー | 労働条件次第で、CP は定着して活動を継続する。 | B |
| | | 機材の更新は可能か。 | 関係機関、CP | インタビュー | COMITE は予算計画を策定しており、機材の更新は可能である。 | A |
| | | CP の能力は向上したか。 | 関係機関、専門家、CP | インタビュー | プロジェクトにより、CP は自主的に家畜診断ができるようになった。おり、技術能力は大きく向上した。 | A |
| | | 移転された技術は、他州や他の機関で普及していくか。 | 関係機関、専門家、CP | インタビュー | 他州からの研修の要請がきており、移転された技術は、他州や他の機関で普及する。 | A |
| | | 新たな家畜疾病への対応は可能か。 | 関係機関、専門家、CP | インタビュー | CP は自信をつけており、対応は可能である。 | A |
| | | 日本から導入した培養細胞、凍結面凍の維持更新は可能か。 | 関係機関、専門家、CP | インタビュー | 現在、凍結面凍の維持更新ができており、今後可能である。 | A |
| | | プロジェクトの自立発展性を阻害する要因はあるか。 | 関係機関、専門家、CP | インタビュー | 顕著な要因は確認されていない。 | A |
| 総合的に勘案して、自立発展性は高いか。 | 関係機関、専門家、CP | インタビュー | 財政的、技術的に自立発展性は高い。 | A | | |

関係機関：SAGARPA (DGSA)、CENASA、SEDER、CUCBA、COMITE 等

注：評価段階 A：高 B：中高 C：中低 D：低

8. 投入実績

| 実施期間: 2001年12月10日～2006年12月6日(5年間) | 年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|-----------------|----|----------------------|---|------|---|------|---|------|---|------|---|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|--|
| | 01 | | 2002 | | 2003 | | 2004 | | 2005 | | 2006 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 月 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
| 日本橋(1/2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. 専門家派遣 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-1 長期専門家(7名) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 高茂 貴 | チーフアドバイザー/ウイルス学 | | 2001/7/20～2003/1/29 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山本 孝史 | チーフアドバイザー/細菌学 | | 2003/1/27～2005/1/29 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山井 志郎 | 細菌学 | | 2002/6/3～2004/6/2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 松村 博敏 | 病理学 | | 2002/7/15～2005/7/14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小瀬 生夫 | ウイルス学 | | 2005/11/28～2006/1/29 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 川上 哲也 | 免疫調整 | | 2004/2/5～2006/2/4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 横住 清 | 免疫調整 | | 2001/12/10～2004/1/29 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-2 短期専門家(14名、2006年1名予定) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 江口 正昭 | 細菌学 | | 2002/4/4～6/5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 利光 昭彦 | ウイルス学 | | 2002/9/9～12/7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 委倉 基裕 | 細菌学 | | 2003/1/9～2/15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 田中 省彦 | 病理学 | | 2003/4/10～6/7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 村上 賢二 | ウイルス学 | | 2003/6/19～8/20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 赤池 直宏 | 細菌学 | | 2003/10/25～12/24 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山田 学 | 病理学 | | 2004/4/3～5/22 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 末宮 益雄 | 病理学 | | 2004/6/9～10/9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今田 忠男 | ウイルス学 | | 2004/8/19～11/13 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小林 秀樹 | 細菌学的 | | 2005/4/7～4/20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大滝 真三郎 | ウイルス学 | | 2005/6/20～9/24 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中島 博美 | 細菌学 | | 2005/11/10～2005/5/6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 徳谷 亮 | 病理学 | | 2003/7/26～9/24 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山田 学 | 病理学 | | 2006/3/23～4/6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 伊藤 祐和 | 細菌学 | | 2006/6/1～7/1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 機材供与 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 約1億2千万円(顕微鏡、細胞培養装置、滅菌装置等) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 年 月 | 2002 | | | 2003 | | | 2004 | | | 2005 | | | 2006 | | | | | | | | | | | | | | |
|---|------|----|----|------|---|---|------|---|---|------|---|---|------|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| メキシコ橋(1/2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1. C/Pの配置 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 氏名 職位/分野 配置期間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-1 プロジェクトダイレクター(2名) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 赤セ・アンヘル・デル・バレー・ジェ・エム. SAGARPA動物衛生局長 2001/9～2006/6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| エンリケ・サンチェス・クルス SAGARPA動物衛生局長 2006/7～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-2 プロジェクトマネージャー(3名) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ロドリゴ・ディアス・デ・ソジャノ・E. SEDER局長 2001/12～2004/1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| フアン・ホセ・サンチェス・アルダナ・E. SEDER局長 2004/2～2005/8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アルバロ・ガルシア・チャベス SEDER局長 2005/8～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-3 プロジェクトコーディネーター(3名) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カルロス・フロレス・チャバ・デ・イタ 2001/12～2003/1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ロドリゴ・ラミレス・ダサ・バルガス 2003/2～2004/7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アドリアーナ・デル・C. ナバロ・ナバロ 2004/8～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-4 エルサルトラボ所長(1名) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アブラハム・ホセ・マサ・ベニチエ 2001/12～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-5 各分野のC/P(22名) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アロンソ・ガラソ・コナード ウイルス学 2001/12～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ホルヘ・サンチェス・ゴンサレス ウイルス学 2001/12～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ノエミ・サン・バルバラ ウイルス学 2006/2～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ブレンダ・A. オルデス・H ウイルス学 2005/11～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ルイス・エドゥアルド・フランコ・E. ウイルス学 2002/5～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ペロニカ・カリーナ・ゴンサレス 血清学 2001/12～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ソニア・ブリード・オセガタ 血清学 2004/4～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ミレージャ・ゴンザレス・ビジャルバンド 血清学 2005/8～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ロレーナ・オリビア・フリアス・ロン 血清学 2002/5～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ルイス・ウンベルト・チャベス・ブガリン 臨床分析・ブルセラ血清学 2001/12～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ニディア・フレイタス・チャベス・オルテガ 臨床分析・ブルセラ血清学 2002/5～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| エステル・エリザベス・リソ 臨床分析・ブルセラ血清学 2005/1～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| モニカ・マサ・バニエロス 細菌学 2001/12～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| クラウディア・エレナ・アグアジョ 細菌学 2004/11～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ハビエル・ホルハ・コントレiras 薪核 2005/3～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| マリア・エディス・セベタ・カンセコ 薪核 2002/4～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ルベン・エチエス・テ・ガルシア・A. 病理学 2001/12～2003/1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| グスターボ・リオス・コントレiras 病理学 2001/12～2002/1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ナディア・ラミレス・ガバラ 病理学 2001/12～2003/12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| フアビアン・バレンスエラ・プレシアード 病理学 2002/4～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アレハンドロ・フローレス・モンテネグロ 病理学 2005/1～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| レディシア・バラサ・ラミレス 病理学 2002/5～ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1-6 管理運営職員(秘書、その他の補助職員) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| メキシコ国(2/2) 2. 土地・施設 | 年 月 | 2002 | | 2003 | | 2004 | | 2005 | | 2006 | |
|----------------------------|---------------|----------------|---|---|---|---|---|------|--|------|--|
| | | 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | | | | |
| エルサルトラホホ(2001年10月現在地に移転) | | | | | | | | | | | |
| 3. ローカルコスト(人件費、ラボ運営費、施設費等) | 金額(ペソ) | | | | | | | | | | |
| 2001年 | 11,282,419.72 | | | | | | | | | | |
| 2002年 | 5,137,389.91 | | | | | | | | | | |
| 2003年 | 6,401,460.54 | | | | | | | | | | |
| 2004年 | 7,605,377.81 | | | | | | | | | | |
| 2005年 | 9,469,940.27 | | | | | | | | | | |
| 2006年 | 8,482,278.00 | | | | | | | | | | |
| 合計 | 48,378,866.25 | | | | | | | | | | |

メキシコハリスコ州家畜衛生診断技術向上計画終了時評価
質問票集計

1. 妥当性

1-1 プロジェクト実施の必要性はあったか。

1-1-1 対象地域・社会のニーズに合致していたか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 4 | | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 7 | 6 | | | | | | 13 |
| 専門家 | 1 | 1 | | | 1 | | | 3 |
| 合計 | 12 | 8 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) ハリスコ州の畜産で発生するキャンペーン疾病およびその他の家畜伝染病に対処するために、機材整備と人材育成が必要であった。
- 2) 必要性があったため、より現実的で適切な技術が実施された。
- 3) 州政府、生産者、学界および JICA の間で協議がなされた結果である。
- 4) プロジェクトの目標水準は、予測される必要性に対応している。

1-1-2 ターゲットグループのニーズに合致していたか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 4 | | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 7 | 4 | | | 2 | | | 13 |
| 専門家 | 1 | 2 | | | | | | 3 |
| 合計 | 12 | 7 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 生産者および家畜衛生担当者が、EMA の認定ラボの認証を獲得できる質の高いラボを保有するニーズに合致している。
- 2) ターゲットグループに対応するには、時間的にはもう少し延長しても良かったかもしれない。
- 3) 必要ではないが、全ての生産者（ターゲットグループ）に対して聞き取りはしていない。

1-2 設定された目標は、メキシコ国の開発政策との整合性があったか。

1-2-1 対象分野の開発課題に対する効果を上げる戦略として適切であったか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 4 | | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 6 | 5 | | | 2 | | | 13 |
| 専門家 | 1 | 1 | | | 1 | | | 3 |
| 合計 | 11 | 7 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) キャンペーン疾病の診断を確実に向上させるための技術の改善であり適切であった。
- 2) 課題解決の戦略は、診断技術の向上だけであると判断できない。
- 3) ハリスコ州は中西部諸州と同様に、家畜衛生における国家政策を実行するために、キャンペーン疾病の清浄化の知識を必要としていた。

1-2-2 プロジェクトのアプローチは適切であったか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 4 | | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 6 | 5 | 1 | | 1 | | | 13 |
| 専門家 | 1 | 3 | | | | | | 3 |
| 合計 | 10 | 9 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 診断技術の改善に焦点を当てており適切である。
- 2) 疾病診断の改善の観点からは適切である。

3) プロジェクトの目的が新技術を適用することであるならば、適切な C/P を選択すべきである。

1-3 ターゲットグループの選定は適正であったか。

1-3-1 ターゲットグループの対象および規模は適正であったか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 4 | | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 5 | 2 | | | 2 | 4 | | 13 |
| 専門家 | 1 | 1 | | | 1 | | | 3 |
| 合計 | 10 | 3 | 0 | 0 | 4 | 4 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 畜産の疾病診断に関する必要性と対応していた。
- 2) 規模や畜種を問わず、畜産全体を対象にしている。
- 3) 目標グループも対象グループも共に畜産農家である。
- 4) 達成できる対象であり適正である。

1-3-2 ターゲットグループ以外への波及性はあったか。

| 回答 | 大きくあった | 十分にあった | 少しあった | なかった | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|--------|--------|-------|------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 2 | 2 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 1 | 7 | | | 4 | 1 | | 13 |
| 専門家 | | 2 | | | 1 | | | 3 |
| 合計 | 3 | 11 | 0 | 0 | 6 | 1 | 0 | 21 |

コメント

- 1) キャンペーン疾病の診断と新しいステージを得ることによる家畜衛生キャンペーンの進展を容易にし、州の畜産生産の振興を容易にし、ブルセラ病や結核のような人間に感染する疾病の危険性を低減させた。
- 2) キャンペーン疾病の清浄化および撲滅によって、生産者に経済的な効果として波及した。
- 3) 家畜衛生キャンペーンにより、今後持続的に波及する。

1-4 日本の技術の優位性はあったか。

| 回答 | 大きくあった | 十分にあった | 少しあった | なかった | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|--------|--------|-------|------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 4 | | | | | | | 4 |
| 関係機関 | 1 | | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 5 | 8 | | | | | | 13 |
| 専門家 | 3 | | | | | | | 3 |
| 合計 | 13 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 日本の診断技術は確かなものである。
- 2) 既存技術の改善と新技術の導入には、非常に有用であった。
- 3) ラボを視察した際に、日本技術の優位性を確認した。
- 4) 日本の協力によるラボの知識向上により診断水準が改善した。

1-5 中間評価以降のプロジェクトを取り巻く環境（政策、経済、社会等）の変化はあったか。

| 回答 | 大きくあった | 十分にあった | 少しあった | なかった | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|--------|--------|-------|------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 2 | 3 | 3 | 1 | 3 | 1 | | 13 |
| 専門家 | 1 | 1 | | | 1 | | | 3 |
| 合計 | 4 | 5 | 4 | 2 | 5 | 1 | 0 | 21 |

コメント

- 1) FTA が妥結し、生産者の輸出意欲が大幅に増加した。
- 2) 大統領・州知事選があり、何らかの影響があった。
- 3) プロジェクトに関係する SAGARPA および SEDER の幹部が交代した。
- 4) プロジェクトディレクター・マネジャー・コーディネーターが複数交代したが、大きな阻害要因とは成らなかった。
- 5) 公的な制度支援が継続した。

2. 有効性

2-1 PDM は必要に応じて見直されたか。

| 回答 | 十分 | 概ね | 不十分 | 分からない | 答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|----|----|-----|-------|----------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 2 | 2 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 4 | 1 | | 2 | 2 | 4 | | 13 |
| 専門家 | | 3 | | | | | | 3 |
| 合計 | 6 | 6 | 0 | 2 | 3 | 4 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 必要に応じて検討された。
- 2) 字句の修正程度であった。
- 3) 活動に関するモニタリングは行われた。
- 4) PDM とは何か知らない。

2-2 プロジェクト目標は達成されるか。

2-2-1 プロジェクト目標は明確か。

| 回答 | 十分 | 概ね | 不十分 | 分からない | 答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|----|----|-----|-------|----------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 4 | | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 6 | 6 | | | 1 | | | 13 |
| 専門家 | 2 | 1 | | | | | | 3 |
| 合計 | 12 | 8 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 診断体制の改善は明確である。
- 2) ラボ職員の技術水準が向上することは、キャンペーン疾病の状況改善に寄与する。
- 3) ラボの技術水準が向上し、州の衛生状況の改善に貢献した。

2-2-2 プロジェクト目標はどの程度まで達成できたか。

| 回答 | 全く達成 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 3 | 1 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | | 11 | 1 | | | 1 | | 13 |
| 専門家 | 1 | 2 | | | | | | 3 |
| 合計 | 4 | 15 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 達成は明白である。
- 2) 計画された目標は、ほとんど達成された。
- 3) ラボと日本での研修が実施され、必要機材が供与された。
- 4) 少し時間が不足していた。
- 5) 一部の疾病診断に関しては、若干不足している。

2-3 アウトプットは達成されるか。

| 回答 | 全く達成 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 1 | 3 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | 1 | | | | | 1 |
| カウンターパート | | 11 | | | | 2 | | 13 |
| 専門家 | 2 | 1 | | | | | | 3 |
| 合計 | 3 | 15 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 計画されたアウトプットは、ほとんど達成された。
- 2) ラボの検査能力が向上し、州の家畜衛生状況が改善した。
- 3) 少し時間が不足していた。
- 4) 一部の疾病診断に関しては、若干不足している。
- 5) 技術移転に関する JICA の支援が望まれる。

2-4 アウトプットは、プロジェクト目標を達成するために十分であったか。

2-4-1 アウトプットの産出とプロジェクト目標の達成とに論理的な無理はなかったか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 2 | | 1 | | | 1 | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 1 | 3 | 1 | | 2 | 6 | | 13 |
| 専門家 | 1 | 2 | | | | | | 3 |
| 合計 | 4 | 6 | 2 | 0 | 2 | 7 | 0 | 21 |

コメント

- 1) プロジェクト目標は家畜衛生状況の改善に大きく貢献しており、アウトプットは家畜衛生システムの重要な部分である。
- 2) 計画どおりである。
- 3) 実現不可能なことは計画されず、プロジェクトは予算に基づいて実施された。

2-4-2 C/P の能力向上は十分であったか。

| 回答 | 全く確実 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 2 | 2 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | 1 | | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 3 | 5 | 4 | | | 1 | | 13 |
| 専門家 | 2 | 1 | | | | | | 3 |
| 合計 | 8 | 8 | 4 | 0 | 0 | 1 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 診断技術は実際に改善した。
- 2) C/P の知識と仕事に対する姿勢が大きく変化したことは、特記すべきことである。
- 3) C/P は全員プロとして成長した。
- 4) 参加者には十分であろうが、個人的には一層の人材育成が必要だと思う。
- 5) プロジェクトで不足する分は、継続的な能力向上により期待される。

2-4-3 研修およびセミナーは開催されたか。

| 回答 | 全く確実 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 4 | | | | | | | 4 |
| 関係機関 | 1 | | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 5 | 8 | | | | | | 13 |
| 専門家 | 1 | 2 | | | | | | 3 |
| 合計 | 11 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 定期的実施された。
- 2) 計画にのっとって達成された。
- 3) セミナーに比較して研修が少ないが、日常検査の業務量を考慮すると、これ以上は無理であったと推察される。
- 4) 研修には大学が共同参加している。
- 5) 地方ラボに対する研修は未だ不十分である。

2-5 外部条件の影響はあったか。

| 回答 | 全くなかった | 少しあった | ある程度あった | 大きくあった | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|--------|-------|---------|--------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 1 | 1 | | | | 2 | | 4 |
| 関係機関 | | | | | | 1 | | 1 |
| カウンターパート | | | | | 4 | 9 | | 13 |
| 専門家 | | 1 | 1 | | | | 1 | 3 |
| 合計 | 1 | 2 | 1 | 0 | 4 | 12 | 1 | 21 |

コメント

- 1) FTA の妥結は、プラスに作用している。
- 2) PDM における活動の外部条件「3. 他の COMITE のラボの整備に必要な設備、人員、予算が適切に配置される」に関し、地方ラボの体制は現在流動的である。
- 3) C/P の調整により、状況は有利に働いた。

2-6 プロジェクト目標の達成を阻害・貢献する要因はあったか。

| 回答 | 全くなかった | 少しあった | ある程度あった | 大きくあった | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|--------|-------|---------|--------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 3 | 1 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | | 3 | 4 | 2 | 3 | | 1 | 13 |
| 専門家 | 1 | 1 | | | | | 1 | 3 |
| 合計 | 4 | 5 | 4 | 2 | 4 | 0 | 2 | 21 |

コメント

- 1) プロジェクト目標の達成に貢献する要因はあった。
- 2) 良好な調整機能はプロジェクトに貢献した。
- 3) プロジェクトの前半で、メキシコ側のプロジェクトコーディネーターが2回交代し、管理運営上の影響が出た。
- 4) プロジェクトの当初で阻害要因が見られたが、直ぐに解決した。

3. 効率性

3-1 アウトプットの産出状況は適切か。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 4 | | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 2 | 3 | | | 3 | 5 | | 13 |
| 専門家 | | 3 | | | | | | 3 |
| 合計 | 6 | 7 | 0 | 0 | 3 | 5 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 診断過程における技術が向上し、対処できる疾病数が増加した。
- 2) 生産者が要求する診断技術の実施を継続することに基づいている。
- 3) プロジェクトの計画に基づいている。

3-2 活動とアウトプットの関係は適切か。

3-2-1 アウトプットを産出するために十分な活動であったか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 4 | | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 2 | 6 | 1 | 1 | 3 | | | 13 |
| 専門家 | | 3 | | | | | | 3 |
| 合計 | 6 | 10 | 1 | 1 | 3 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 診断技術が向上し、対処できる疾病数が増加したことが確認された。
- 2) 家畜衛生担当者による家畜衛生キャンペーンの進展を支援する、生産者の質の高いサービスの要求に適応している。
- 3) プロジェクトの計画に基づいている。

3-2-2 外部条件の影響はあったか。

| 回答 | 全くなかった | 少しあった | ある程度あった | 大きくあった | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|--------|-------|---------|--------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 3 | | | | | 1 | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | | 1 | | | 3 | 9 | | 13 |
| 専門家 | | 1 | 1 | | | | 1 | 3 |
| 合計 | 3 | 2 | 1 | 0 | 4 | 10 | 1 | 21 |

コメント

- 1) FTA の締結により、プロジェクトへの理解が深まり、効率性が向上した。
- 2) メキシコ側のプロジェクトコーディネーターが2回交代したことは、効率性に影響した。
- 3) 英語の能力向上の準備が不足した。

3-3 活動のための適正な規模・質の投入がタイミング良く実施されたか。

3-3-1 専門家の派遣は適切であったか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 2 | 2 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 7 | 5 | | | 1 | | | 13 |
| 専門家 | | 3 | | | | | | 3 |
| 合計 | 9 | 10 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 計画どおりに実施された。
- 2) 研修強化のために、しかるべく計画されたものと推察される。

3-3-2 供与機材は適切であったか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 3 | 1 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 11 | 2 | | | | | | 13 |
| 専門家 | 1 | 2 | | | | | | 3 |
| 合計 | 15 | 5 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 機材は、キャンペーン疾病およびその他の疾病を診断するために必要な整備ラボを考慮した研修計画に基づいて供与された。
- 2) PCRの1セットを除き、必要性に対応している。

3-3-3 C/Pの配置は適切であったか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 3 | 1 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 4 | 2 | | | 3 | 4 | | 13 |
| 専門家 | | 3 | | | | | | 3 |
| 合計 | 7 | 6 | 0 | 0 | 4 | 4 | 0 | 21 |

コメント

- 1) C/Pおよびラボ所長との調整に基づいて配置された。
- 2) 計画された期間と同様に配置された。

3-3-4 施設の投入は適切であったか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 1 | 1 | 2 | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 2 | 5 | 4 | 2 | | | | 13 |
| 専門家 | | 3 | | | | | | 3 |
| 合計 | 3 | 9 | 6 | 2 | 1 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) メキシコ側は、エルサルトラボを建設し、プロジェクトの開始時に引き渡した。
- 2) 研修棟の建設延滞が唯一の懸案事項である。
- 3) 研修棟の建設が延滞しているが、研修活動には影響していない。
- 4) 一部に遅れがあった。

3-3-5 研修員の受け入れは適切であったか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 4 | | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 9 | 3 | | | 1 | | | 13 |
| 専門家 | 2 | 1 | | | | | | 3 |
| 合計 | 15 | 4 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 一部の研修内容が未実施であったが、ほぼ適切であった。
- 2) 獲得した知識は研修員の能力向上に寄与した。
- 3) 研修によるC/Pの変化は、特記すべきことである。
- 4) 比較的時間に余裕があったため、その時間をより多くの実習に使えたらよかった。

3-4 妥当なコストであったか。

3-4-1 総コストは妥当であったか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 3 | 1 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 8 | 1 | | | 4 | | | 13 |
| 専門家 | | 2 | | | 1 | | | 3 |
| 合計 | 11 | 4 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 生産者の負担が少し不足していた。
- 2) 目的を効果的に達成するのに適切であったと思慮される。

3-4-2 日本側負担現地コストは妥当であったか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 4 | | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 10 | | | | 3 | | | 13 |
| 専門家 | | 2 | | | 1 | | | 3 |
| 合計 | 14 | 2 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 目的を効果的に達成するのに適切であったと思慮される。
- 2) 内容を良く知らない。

3-4-3 メキシコ側の投入は妥当であったか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 3 | 1 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 3 | 3 | 3 | | 4 | | | 13 |
| 専門家 | | 2 | | | 1 | | | 3 |
| 合計 | 6 | 6 | 3 | 0 | 6 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 税の支払い、資機材のメンテナンス、資機材の保険等のプロジェクトを進展させるために必要な経費は連邦・州政府の負担であった。
- 2) プロジェクトを進展させるために、職員の待遇改善のための支援を講ずる必要がある。
- 3) 生産者の負担が少し不足していた。

3-5 投入は適切であったか。

3-5-1 アウトプットは投入に見合ったものであるか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 4 | | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 4 | 2 | 2 | | 5 | | | 13 |
| 専門家 | 1 | 2 | | | | | | 3 |
| 合計 | 9 | 4 | 2 | 0 | 6 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 投入はアウトプットに明白に反映された。
- 2) ハリスコ州は、公式に SAGARPA と EMA によって、しかるべき設備が整い、能力のある人材を抱えるラボを獲得することを達成した。

3-5-2 プロジェクト目標の達成度は投入に見合ったものであるか。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 4 | | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 2 | 4 | 2 | | 5 | | | 13 |
| 専門家 | 1 | 2 | | | | | | 3 |
| 合計 | 7 | 6 | 2 | 0 | 6 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) プロジェクト目標の達成に見合っている。
- 2) アウトプットレベルでは適切であったが、プロジェクト目標レベルではそうとはいえない。

3-6 プロジェクトの効率性を阻害・貢献する要因はあったか。

3-6-1 C/P の定着度に問題はあったか。

| 回答 | 全くなかった | 少しあった | ある程度あった | 大きくあった | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|--------|-------|---------|--------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | | 2 | 2 | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 2 | 3 | 4 | 2 | 2 | | | 13 |
| 専門家 | | 3 | | | | | | 3 |
| 合計 | 2 | 8 | 6 | 2 | 3 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) プロジェクトの初期段階で離職者があったが、大きな阻害要因とはならなかった。
- 2) メキシコ側のプロジェクトコーディネーターが2回交代したことは、効率性に影響した。
- 3) 初期段階に日本側とメキシコ側のコミュニケーションが十分ではなかった。
- 4) C/P の給与は、COMITE の経済的な可能性に基づいて支給された。
- 5) 職員の低い所得とその改善の遅れは阻害要因といえる。

3-6-2 機材の維持管理に問題はあったか。

| 回答 | 全くなかった | 少しあった | ある程度あった | 大きくあった | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|--------|-------|---------|--------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 3 | 1 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 1 | 5 | 1 | 6 | | | | 13 |
| 専門家 | | 3 | | | | | | 3 |
| 合計 | 4 | 9 | 1 | 6 | 1 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) プロジェクトの初期段階で、ラボの設備関係に若干の問題があった。
- 2) 初期段階の機材納入は首都の業者であったため、修理に問題があったが、後に改善された。
- 3) 現地で入手不可能な消耗品があった（プリンターのヘッド等）。
- 4) 必要なメンテナンスは実施された。
- 5) 機材は故障したときは修理されるが、定期的なメンテナンスは行われていない。
- 6) 予防メンテナンスの考え方がない。

3-6-3 その他の要因はあったか。

| 回答 | 全くなかった | 少しあった | ある程度あった | 大きくあった | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|--------|-------|---------|--------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 2 | 2 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | 1 | | | 1 |
| カウンターパート | 1 | 3 | | | 6 | 2 | 1 | 13 |
| 専門家 | 2 | | 1 | | | | | 3 |
| 合計 | 5 | 5 | 1 | 0 | 7 | 2 | 1 | 21 |

コメント

- 1) プロジェクトの初期段階で、日本側とメキシコ側とのコミュニケーションに問題があった。
- 2) 供与機材の引き取りに長時間を要した。
- 3) メキシコ側の適切な資源が不足していた。

4. インパクト

4-1 上位目標は達成される見込みか。

4-1-1 投入・アウトプットの実績、活動の状況に照らし合わせて、上位目標はプロジェクトの効果として発現が見込まれるか。

| 回答 | 全く確実 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 3 | 1 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 3 | 7 | 2 | | | 1 | | 13 |
| 専門家 | 1 | 1 | 1 | | | | | 3 |
| 合計 | 7 | 10 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 豚コレラは既に清浄化しており、清浄性の確認モニタリングが効率的に実施できたのは、プロジェクトの成果である。
- 2) 州の家畜衛生状況を改善し、衛生プログラムを適用する生産者を支援する診断技術は確立した。

- 3) プロジェクトの貢献は大きく、家畜衛生システムおよび生産者の努力を評価すべきである。
- 4) 上位目標は非常に広範であり、疾病診断の向上だけによる生産の増大は難しい。
- 5) キャンペーン疾病を全て撲滅することは容易ではない。
- 6) 家禽生産者のより積極的な参加が望まれる。

4-1-2 上位目標の達成によりメキシコ国の開発計画へのインパクトは見込めるか。

| 回答 | 全く確実 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 1 | 3 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 2 | 5 | 2 | | | 4 | | 13 |
| 専門家 | | 2 | | | | 1 | | 3 |
| 合計 | 3 | 11 | 2 | 0 | 0 | 5 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 家畜衛生状況および生産性の向上により、畜産部門の社会経済状況が改善し、市場機会も増大する。
- 2) 直接的には技術的な能力向上であるが、国内外の新規市場を開拓する、消費者向けの生産物や副産物の衛生品質を保証する家畜診断による家畜衛生の改善に貢献した。
- 3) 衛生改善に基づく家畜衛生状況においてハリスコ州は進展した。
- 4) 疾病診断の向上だけによる波及効果は、ハリスコ州においてだけである。

4-1-3 上位目標の達成を阻害する要因はあるか。

| 回答 | 全くなかった | 少しあった | ある程度あった | 大きくあった | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|--------|-------|---------|--------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 3 | 1 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 1 | 2 | 3 | 1 | 4 | 1 | 1 | 13 |
| 専門家 | 2 | | | | 1 | | | 3 |
| 合計 | 6 | 4 | 3 | 1 | 5 | 1 | 1 | 21 |

コメント

- 1) 生産者のより積極的な参加および政府と生産者からの物的な支援が不可欠である。
- 2) 行政および生産者における要因がある。
- 3) 経済要因がある。
- 4) 家畜衛生キャンペーンの進捗次第である。

4-2 上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか。

4-2-1 上位目標とプロジェクト目標の関係は論理的か。

| 回答 | 全く妥当 | 十分に妥当 | あまり妥当ではない | 全く妥当ではない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|-------|-----------|----------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 3 | | | 1 | | | | 4 |
| 関係機関 | 1 | | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 5 | 4 | 2 | | 2 | | | 13 |
| 専門家 | | 3 | | | | | | 3 |
| 合計 | 9 | 7 | 2 | 1 | 2 | 0 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 能力が向上したラボにより、州の家畜衛生状況は継続的に改善されていくであろう。
- 2) 関係はあるが、上位目標は意欲的過ぎる。
- 3) 目的を達成する状況にあるといえる。

4-2-2 外部条件が満たされる可能性は高いか。

| 回答 | 全く確実 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 1 | 3 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 2 | 4 | 5 | | | 2 | | 13 |
| 専門家 | | 2 | | | | 1 | | 3 |
| 合計 | 3 | 10 | 5 | 0 | 0 | 3 | 0 | 21 |

コメント

- 1) プロジェクトの活動と関係しない生産的な要素もある。
- 2) 他州または未登録の零細農家から疾病が流入/発生する可能性はある。
- 3) 政府と生産者からの物的な支援次第である。
- 4) 短中期目標で、異なる家畜種において新ステージに達する。

4.3 ターゲットグループの状況はプロジェクトの実施前と比較して変化したか。

| 回答 | 大きくあった | 十分にあった | 少しあった | なかった | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|--------|--------|-------|------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 1 | 2 | | 1 | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | | 1 | | 1 |
| カウンターパート | 2 | 2 | 2 | 1 | 3 | 3 | | 13 |
| 専門家 | | 2 | | | | 1 | | 3 |
| 合計 | 3 | 6 | 2 | 2 | 3 | 5 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 家畜衛生状況は飛躍的に改善した。
- 2) 畜産農家は家畜衛生キャンペーンに参加し、収入が向上した。
- 3) 家畜衛生の状況に左右される畜産の市場化を容易にする、清浄化の段階の方策を得ることができた。
- 4) プロジェクト開始以前の状況が不明確のため、判断できない。

4.4 その他の波及効果（正・負）はあるか。

| 回答 | 大きくあった | 十分にあった | 少しあった | なかった | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|--------|--------|-------|------|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | 4 |
| 関係機関 | | | | | | 1 | | 1 |
| カウンターパート | 1 | | 2 | 1 | 2 | 7 | | 13 |
| 専門家 | | 2 | | | | 1 | | 3 |
| 合計 | 2 | 3 | 2 | 1 | 2 | 10 | 1 | 21 |

コメント

- 1) ラボに対する生産者の信頼が増加した。
- 2) 他州のラボ職員に対する研修の実施は、プラスのインパクトである。
- 3) 中西部地域のラボの改善に間接的に寄与した。
- 4) マイナスインパクトはなかった。

5. 自立発展性

5-1 政策支援は協力終了後も継続するか。

| 回答 | 全く確実 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 1 | 3 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | | 1 | | 1 |
| カウンターパート | 2 | | 1 | | | 10 | | 13 |
| 専門家 | | 1 | | | | 2 | | 3 |
| 合計 | 3 | 4 | 1 | 0 | 0 | 13 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 全ての関係機関は、今後も支援することを確約している。
- 2) 連邦・州政府ともに強い関心を寄せている。
- 3) プロジェクトの中心であるエルサルトラボは、家畜衛生を継続的に進展させる道標と考えられる。
- 4) 家畜衛生キャンペーンの清浄化レベルを保持し、州の畜産生産の市場化を拡大する必要条件を満足することは必要である。
- 5) 政権交代による若干の影響はありうる。

5-2 活動は継続して行われるか。

5-2-1 COMITE には協力終了後も活動を継続する組織能力はあるか。

| 回答 | 全く確実 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 2 | 2 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | | 1 | | 1 |
| カウンターパート | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 8 | | 13 |
| 専門家 | | 1 | 1 | 1 | | | | 3 |
| 合計 | 2 | 5 | 2 | 2 | 1 | 9 | 0 | 21 |

コメント

- 1) COMITE 予算の 1/3 は連邦政府からの交付金であり、政権交代による若干の影響はありうる。
- 2) 生産者組織の支援および連邦・州政府の技術・経済支援が確認されている。
- 3) 公的セクターはこの種の組織を強化する責務がある。
- 4) 他の全ての機関が関係を密にして、協力することが必要である。
- 5) 生産者組織は家畜衛生に参加する核である。
- 6) 現在の C/P の確保の観点からは、十分ではない。

5-2-2 SEDER および COMITE のプロジェクトに対するオーナーシップは十分に確保されているか。

| 回答 | 全く確保 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 2 | 2 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | | 1 | | 1 |
| カウンターパート | | 2 | 1 | | | 10 | | 13 |
| 専門家 | | 3 | | | | | | 3 |
| 合計 | 2 | 7 | 1 | 0 | 0 | 11 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 畜産開発を支援するのに不可欠な家畜衛生の活動は共通の関心事である。
- 2) COMITE に関しては確実である。
- 3) 州レベルの畜産生産において、社会経済的な重要性により、共に直接的に関与している。
- 4) 月例会議に出席するなど、より一層の積極的な関与が必要である。
- 5) 連邦政府にも責任がある。

5-2-3 プロジェクトを継続するために必要な人材、経費を確保しているか。

| 回答 | 全く確保 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 3 | 1 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | 1 | | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 5 | 1 | | 1 | 3 | 3 | | 13 |
| 専門家 | | 2 | | | | 1 | | 3 |
| 合計 | 9 | 4 | 0 | 1 | 3 | 4 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 人材確保のため、すなわち、ラボの良好な運営に必要な経費を確保するために、予算を計上する必要がある。
- 2) 改善のために支援策が考慮されよう。
- 3) SAGARPA を通じた連邦政府の支援が必要である。

5-2-4 C/P は定着して活動を継続するか。

| 回答 | 全く確保 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 1 | 3 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | | 1 | | 1 |
| カウンターパート | 1 | 1 | 1 | | 1 | 9 | | 13 |
| 専門家 | | 2 | | | | 1 | | 3 |
| 合計 | 2 | 6 | 1 | 0 | 1 | 11 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 日本での研修に先立って、C/P はラボでの定着を COMITE と契約しており、さらに、関係機関は C/P の雇用条件の改善を検討している。
- 2) 雇用条件（給与）次第であろう。
- 3) COMITE の職員の処遇次第である。
- 4) COMITE は今後ともラボを運営し発展させていく責任があるが、研修を受けた C/P を維持できるか否かについては、不確定要素がある。
- 5) 改善の可能性による定着が予測される。

5-2-5 機材の更新は可能か。

| 回答 | 全く確保 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 1 | 1 | | 1 | | | 1 | 4 |
| 関係機関 | | | | | | 1 | | 1 |
| カウンターパート | | 1 | 2 | | | 9 | 1 | 13 |
| 専門家 | | | 2 | | | 1 | | 3 |
| 合計 | 1 | 2 | 4 | 1 | 0 | 11 | 2 | 21 |

コメント

- 1) 技術的な問題は少ないが、プロセスには時間がかかることが懸念される。
- 2) 機材のメンテナンスはメキシコ側の責任である。
- 3) 機材の維持管理と更新は、活動を継続するために必要になるであろう。
- 4) 一般的な維持管理は常に必要とされ、機材は耐用期間により更新が考慮される。

5-3 プロジェクトで移転された技術は定着するか。

5-3-1 C/P の能力は向上したか。

| 回答 | 全く確実 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 2 | 2 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | 1 | | | | | 1 |
| カウンターパート | 2 | 3 | 6 | | | 2 | | 13 |
| 専門家 | 1 | 2 | | | | | | 3 |
| 合計 | 5 | 7 | 7 | 0 | 0 | 2 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 完全に向上した。
- 2) 技術だけでなく姿勢も向上した。
- 3) プロジェクトに直接参加した人は、知識と能力を習得した。
- 4) 他の人に研修する約束がなされている。

5-3-2 移転された技術は、他州や他の機関で普及していくか。

| 回答 | 全く確実 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 2 | 2 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | | | | | 1 | | 1 |
| カウンターパート | 2 | | | | | 11 | | 13 |
| 専門家 | | | 1 | | | 1 | | 2 |
| 合計 | 4 | 2 | 2 | 0 | 0 | 13 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 技術移転は既に計画され、契約がなされている。
- 2) 必要とされる研修に職員の参加が継続的に実施される。
- 3) CENASA の意識次第である。
- 4) PDM では、特に目的とはしていない。

5-3-3 新たな家畜疾病への対応は可能か。

| 回答 | 全く確実 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 3 | 1 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 1 | 2 | | | | 9 | 1 | 13 |
| 専門家 | | 1 | 2 | | | | | 3 |
| 合計 | 4 | 5 | 2 | 0 | 0 | 9 | 1 | 21 |

コメント

- 1) 人材、知識、技術、機材とも可能である。
- 2) 技術能力は十分にある。
- 3) 基礎技術だけではなく応用技術も移転されているため、対応は十分に可能である。
- 4) 人材的には十分な能力を有するが、そのような場合は、CENASA が支援しなくてはならない。

5-3-4 日本から導入した培養細胞、標準菌株の維持更新は可能か。

| 回答 | 全く確実 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 1 | 2 | 1 | | | | | 4 |
| 関係機関 | 1 | | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 4 | 2 | | | | 7 | | 13 |
| 専門家 | | 2 | | | | 1 | | 3 |
| 合計 | 6 | 6 | 1 | 0 | 0 | 8 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 技術能力的には可能であるが、必要な資機材の供給が重要である。
- 2) 技術的には可能であるが、経済的な支援が必要である。
- 3) この分野の業務を継続する契約がなされているため可能である。
- 4) 人材的には十分な能力を有するが、そのような場合は、公的機関の支援を求めなければならないであろう。
- 5) 移転技術以外の要因の影響が大きい。

5-4 プロジェクトの自立発展性を阻害・貢献する要因はあるか。

| 回答 | 大きくある | 十分にある | 少しある | ない | 分からない/答える立場にない | 質問の意味が分からない | 無回答 | 計 |
|----------|-------|-------|------|----|----------------|-------------|-----|----|
| 実施機関 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | 4 |
| 関係機関 | | 1 | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 3 | | 3 | 2 | 4 | 1 | | 13 |
| 専門家 | | | 2 | | 1 | | | 3 |
| 合計 | 4 | 2 | 6 | 3 | 5 | 1 | 0 | 21 |

コメント

- 1) 貢献要因は多くある。
- 2) 生産者の中に、検査とは陰性証明を得ることだとの誤解があることは、阻害要因に成りかねない。
- 3) 上位目標の外部条件次第である。
- 4) 政治的要因が大きい。
- 5) 経済的要因が大きい。
- 6) 阻害する要因があるかどうかはわからない。

5-5 総合的に勘案して、自立発展性は高いか。

| 回答 | 全く確実 | 十分 | 概ね | 不十分 | 全くない | 分からない | 無回答 | 計 |
|----------|------|----|----|-----|------|-------|-----|----|
| 実施機関 | 2 | 2 | | | | | | 4 |
| 関係機関 | 1 | | | | | | | 1 |
| カウンターパート | 1 | 3 | 3 | | | 6 | | 13 |
| 専門家 | | 2 | | | | 1 | | 3 |
| 合計 | 4 | 7 | 3 | 0 | 0 | 7 | 0 | 21 |

コメント

- 1) ラボの診断サービスに対する需要がある限り、自立発展性はある。
- 2) 州の畜産業は、社会経済の発展のために期待されている。
- 3) ラボの職員（所長と技術職員）に関しては、十分にある。
- 4) 連邦・州政府および生産者間の調整機能があり、自立発展性は高いといえる。しかし、連邦政府関係者の州レベルでのプロジェクトへの参加による人材育成を提言する。
- 5) プロジェクトの持続性は、EMA の認定ラボの認証を維持することと同様に、家畜衛生キャンペーンの状況を維持する上で要求される。

